

ビジネス・ライブラリアン講習会 修了レポート

「かせぐ・はたらく・ミライみつめる
高校生ビジネス・ハイスクール」

宮岡いづみ
港区立三田図書館

1, 港区立三田図書館について

港区立三田図書館は東京の南東部に位置する港区の中でも、とりわけ産業や創業が盛んな、都内でも屈指のビジネスエリアに位置している。令和4(2022)年4月に、区内最大の面積と最多の蔵書を備えた中央館的機能を持つ図書館として開設され、地域館7館と連携施設3施設の図書室の中心を担うとともに、三田図書館が入っている「札の辻スクエア」というビルの同じ建物内に区の産業振興課と産業振興センターが入っているため、ビジネス支援に特化した図書館としての役割が期待されている^[1]。なお、三田図書館を含めた区内5館を株式会社図書館流通センターが指定管理者として業務を請け負っており、管理・運営を行っている。

2, 港区の課題

令和3(2021)年3月に策定され、令和6(2024)年3月に改訂版が出された「第4次港区産業振興プラン 令和5(2023)年度改訂版」における目標を『港区を起点として新しい価値を生み出す「港区産業」の振興と持続的発展～地域とともに歩み、未来を創る～』と掲げており、「企業」「地域」「人材」の3つの観点から、中小企業の経営支援、創業支援、商店街の魅力づくりなどの産業支援を行うこと、地域の図書館である三田図書館と連携したビジネス情報の集積・発信することが明記されている^[2]。また上記施策内の重点事業として「共創パートナー制度によるスタートアップ支援」「アントレプレナー育成事業の推進」が挙げられ、地域から新進気鋭の若手起業家を輩出したいという狙いがあることから、若年層に向けた起業や創業に対する意識、モチベーションの喚起を促す事業が求められている。

また、[経営上の課題]として、ものづくり・IT関連事業者、商業・サービス業関連事業者どちらの業種においても①必要人材の不足、②従業員の高齢化、③後継者の確保・育成の3つが上位に挙がっている^[3]。このことから、未来の地域産業の担い手となるような、地元地域をよく知る人材育成を支援する必要があると考えた。

そこで、港区内に在住、在学している高校生に向けたビジネス支援事業として「高校生ビジネス・ハイスクール」という事業を提案し、それによって地域住民である高校生に会社や起業を身近に感じてもらう機会としたい。具体的な施策は「高校生ビジネスプラン作成講座」と「高校生向けビジネスセミナー開催」の2点である。高校生ならではのアイデアをビジネスに結びつけ、事業としてどう発展させるか考える能力を養うことは、未来の起業家、創業意欲の高い人材を地元地域から生み出すための重要な支援となる。また、参加者である高校生同士の交流や、招聘した講師、中小企業診断士といった社会人と対話する場を設けることで、将来に具体的なイメージを描けない高校生にも、自分の夢や進路を考えるきっかけにすることができると考える。

3、「高校生ビジネス・ハイスクール」事業の概要

3-1、「高校生ビジネスプラン作成講座」の内容

港区で育った地域住民である高校生にビジネスプランを考えてもらい、実際に事業計画書などを作成し発表してもらう場を設けることで、地域発の新たな新興産業の創出を目指す。対象は区内在住の高校生が主となるが、区内の高校に在学している高校生であれば港区在住ではなくても可とする（これは港区立三田図書館のグループ学習室の利用要件に準じた対象設定としている）。個人・グループどちらの形態でも参加できる。日程は1日開催とし、午前に講座の概要の説明、「高校生ビジネスプラン・グランプリ」の前年度の最終審査会の動画を紹介する^[4]。三田図書館のビジネスコーナーで利用できる『業種別審査事典』『業種別業界情報』『日本マーケットシェア事典』といった参考資料の案内と、備え付けのPCから閲覧できる「市場情報評価ナビ MieNa」の使い方を案内する。午後に実際の事業計画書の作成に取り掛かる。作成中は日本政策金融公庫の職員、港区産業振興課の士業サポーター（中小企業診断士）、港区図書文化財課の児童YA担当職員に同席してもらい、高校生の視点に寄り添った助言・フォローを行う。その後は考えてもらったビジネスプランを発表、講評の時間も設ける。講座終了後、自身のプランを「高校生ビジネスプラン・グランプリ」に応募したい参加者に向けて、実際の選考用のプランを作成していくサポート態勢があることを伝える。

3-2、「高校生向けビジネスセミナー」の内容

講座への参加を促すためのプレイベントとして、日本政策金融公庫の職員による無料出張授業を行うほか、港区に所在のある大中小さまざまな企業で働く社会人を講師として招いた高校生向けのビジネスセミナーを開催する。港区産業振興課と連携し、区内事業所の従事者に呼び掛け、講師として高校生に向けたビジネスセミナーを開いてもらう。港区には三田図書館の周辺を見るだけでも日本電気株式会社（NEC）、株式会社バンダイナムコホールディングス、森永製菓株式会社といった知名度の高い大手企業から、そういった大企業を支える中小企業、地元で長い間愛され営まれている商店街の個人店舗にいたるま

で、多種多様な会社が存在しており、働き方も千差万別である。広報や営業だけではなく、製造・開発などの日頃あまり公開されない領域の職種の人などにも協力をお願いし、漠然とした将来像を持つ高校生の視野を広げ想像力を育むような講座にする。

三田図書館では「図書館を使った調べる学習コンクール」の事業として出張授業やコンクール受賞作品の展示を行っており、主に小学生を対象に支援している。この参加者が中学校、高校に進学し、高校生になって図書館に訪れた際に「高校生ビジネス・ハイスクール」事業に参加してもらえるような枠組みづくりも行っていきたい。

4、連携先

4-1、外部団体との連携の現況

港区三田立図書館は、周辺地域に多数の専門図書館^[5]が存在していることも特長の一つといえる。この立地を活かし、専門図書館の位置を記したガイドマップの案内（紙媒体の配布とHPへの掲載）、貴重資料のガラスケース展示と三田図書館内での連携特設展示、定期刊行しているレファレンス月報の紙面上での紹介、専門図書館情報交換会、勉強会などの連携事業を行っている。過去に一般向けの講座を開催した実績はあるが、高校生を対象とする専門図書館との連携事業は行った事がないため、「高校生向けビジネスセミナー」の一環として専門図書館の司書・職員を講師として招き、自館の特色や活用方法を紹介してもらう。企業関係者とは違った視点から、専門的な情報の収集方法や分析方法を知る機会となるのではないかと考える。

4-2、「高校生ビジネス・ハイスクール」の連携先

事業を進めるための連携先は次の通りである。

- ① 日本政策金融公庫：無料出張授業の開催、「ビジネスプラン作成講座」でのプラン作成指導、発表時の講評を依頼
- ② 港区図書文化財課（自治体の図書館管轄部署）：YA担当職員にプラン作成時のアドバイス、発表時の講評を依頼
- ③ 港区産業振興課：「高校生向けビジネスセミナー」の講師を紹介してもらう、公認士業サポーター（中小企業診断士）にプラン作成時の助言、発表時の講評を依頼
- ④ 港区内の専門図書館^[5]：「高校生向けビジネスセミナー」の講師を依頼
- ⑤ 港区産業振興センター：主催事業「ユメカナエル放課後^[6]」の参加対象である高校生にアプローチし、「高校生ビジネス・ハイスクール」へ誘導
- ⑥ 港区内の各高校・先生：区内にある19の高校へ赴き、事業の宣伝を行う。過去に「高校生ビジネスプラン・グランプリ」に応募実績のある高校に出向き、指導法や作成ノウハウを学ぶ^[7]
- ⑦ 港区子ども中高生プラザ：港区内にある児童・中高生向け施設。麻布、赤坂、青山、高輪、港南、芝浦、神明の7地域に設置されている。事業の宣伝協力を依頼

5、期待できる効果・評価指標

地元地域の課題を発見し、解決する思考力を持った未来の起業家を育成し、港区内のスタートアップ事業者を増加させることが期待できる。また、校外の高校生同士の交流や、高校生と地域の社会人の交流の場となり、起業やビジネスに対する意欲を刺激しあうことで、地域発の産業を活性化させることに繋がると考えられる。図書館という空間が、インターネットだけでは知ることのできない情報を調べることができる場所だということを学んでもらうことで、地域の高校生＝区内住民の情報リテラシースキルが向上する。

事業はイベント参加者（組）の数と「高校生ビジネスプラン・グランプリ」への応募数で評価する。産業振興センターで開催される他のビジネス支援事業への接続が叶えば、札の辻スクエア内での参加者の動線と循環が生まれ、「港区産業」がより活発になる可能性が見込める。

6、おわりに

ビジネス・ライブラリアンの講習を受け、最も強く感じたことは、ビジネス支援サービスはとにかく図書館から外に出て外部機関と連携すること、ネットワークと人脈を駆使することが肝要だということである。館内に所蔵の資料がどれだけ貴重で役に立つものであっても、図書館が「待ち」の姿勢では、それらの資料のポテンシャルを十分に発揮させることができず、活用機会を損失し続けているとすら考えることもできる。参考資料やデータベースサービスなど、自分たちが持つ既存の資産がどんなもので、どう活用できるのかを、働いている自分たちがまず学び、そして必要な人、これから必要になることが見込まれる人に対して周知し続ける、その努力を怠らないことが大切であると強く感じた。加えて肝心なのが、その図書館がどのような場所に立地しているのか、来館者はどんな属性の人なのかという特徴を分析すること、図書館が建っている地域が今現在どんな状況なのかということを能動的に情報収集し発信していく、それこそがこれからの図書館に求められる役割ということである。図書館は地域の住民に向けた施設であると同時に、地域外から通勤してくる労働者や観光客を含む来訪者に対しても無償でサービスを提供することができる、他に代替することができない地域の公共空間である。ビジネス支援サービスは、そうした図書館の持つ特性や価値を増幅させ、地域経済の活性化、ひいてはまち全体の発展を支援することに繋がり、結果として図書館自体の必要性や存続にも結びつく重要な事業なのだということを、講習会全体を通して実感した。

今回の研修の中で初めて知ったこと、調べたことや考えたことが多く、また先進的な先行事例を多数知ることができ、自分の「ビジネス支援サービス」に対する意識が大きく変化するきっかけとなった。この体験を、これからの業務や自分自身の人生にも活かしていきたい。

[参考]

[1]港区教育委員会『港区立図書館サービス推進計画』令和6(2024)年2月

[2] 港区『第4次港区産業振興プラン(令和5年度改訂版)』令和6(2024)年3月
第4章 P.10 [yonnshou.pdf](#)

[3]港区『第4次港区産業振興プラン(令和5年度改訂版)』令和6(2024)年3月
第2章 P.11 [nishou.pdf](#)

[4]高校生ビジネスプラン・グランプリ <https://www.jfc.go.jp/n/grandprix/>

[5]港区内に位置する、ガイドマップに掲載の専門図書館19館 <https://www.lib-minato.jp/guide/speciallibrary.html>

- BIC ライブラリ
- アドミュージアム東京 ライブラリー
- 気象庁図書館(国立国会図書館支部気象庁図書館)
- ゲーテ・インスティトゥート東京
- 航空図書館
- 国際文化会館図書室
- 三康図書館
- 味の素食の文化センター 食の文化ライブラリー
- 人権ライブラリー／公益財団法人人権教育啓発推進センター
- 公益財団法人 日本交通公社 旅の図書館
- E・H・ノーマン図書館
- 外務省外交史料館
- ポーラ文化研究所 化粧文化ギャラリー
- 物流博物館
- 全日本海員組合 図書資料室
- 公益社団法人日本鋳造工学会
- 大島椿 椿図書館
- 港区立郷土歴史館(ゆかしの杜)図書室
- 港区立男女平等参画センター リーブラ

[6]ユメカナエル放課後2025 冬 <https://minato-sansin.com/events/entrepreneurship-2025-2/>

港区在住か港区に在学している中高生が対象の、港区立産業振興センター主催のアントレプレナーシップ育成プログラム。普段の学校生活で接点のない大学生・社会人と話すことで、将来の進路について多角的な視点から考え、自分の夢を実現するための目標を考える

ことができる。

[7]港区教育委員会『港区教育史 通史編 9』令和 4（2022）年 3 月

芝商業高等学校：2024 年「学校賞」受賞経歴あり

芝国際高等学校：2024 年「ベスト 100」選出経歴あり